

そのために、報告者の考案のA法B法が活用次第で随分効果的である。またそれにより指導上教師が心得ておかねばならぬ諸点も明確にされた。次回にはさらに具体的にその指導の効果を追究し調査の報告をより完全にするつもりである。

保育者におけるパーソナリ

ティー・インヴェントリー

による性格の類型的研究

幼稚園教員適性検査作成のための基本的研究

栄光幼稚園 日名子 太郎

立教大学 多 勢 豊 次

一、本研究の目的

幼稚園教員適性検査作成への基礎的研究の予備段階として、保育者を志望するものが、一般人と比較してどのような特性を有するかを、性格類型的、知能的に調査し、今後の問題について考えようとするものである。

二、調査の対象

都内保育関係短大並びに神奈川県内短大付属幼稚園教員養成所学生約二〇七名。

三、調査の方法

①性格類型的の研究には「精研式パーソナリティー・インヴェント

第一 表

類型	校別	校別			Total	標準
		B	A	C		
純 型	※S	4.3%	3.8%	7.0%	7.0%	7.9%
	※Z	11.6	11.5	21.0	15.4	10.3
	※E	5.8	9.6	7.0	7.0	8.3
	※H	5.8	1.9	2.3	3.3	5.3
	※N	5.8	1.9	5.8	4.8	5.9
混 合 型	SZ	0	0	1.1	0.5	0.7
	※SE	1.4	0	5.8	2.9	2.1
	※SH	2.9	0	1.1	1.4	1.4
	※SN	1.4	0	1.1	0.9	1.6
	ZE	4.3	3.8	1.1	2.9	0.9
	※ZH	4.3	0	2.3	2.4	2.4
	ZN	0	0	0	0	0.6
	EH	0	0	0	0	1.1
	EN	0	1.9	0	6.5	0.9
	HN	1.4	1.9	0	0.9	1.0
	無 型	M(大)	13.0	28.8	25.6	22.2
M(小)		37.7	34.6	18.6	29.0	45.3
(M)		(50.7)	(63.4)	(44.2)	(51.2)	(49.7)
人員	Z	69人	52人	86人	207人	700人

※印は類型とみとめられるもの (精研佐野氏他による)
ただし M(大)は三つ以上の類型の複合したもの
M(小)はすべてが20%以下のもの

②知能検査には「桐原式一般知能検査」を使用する。
③性格類型に関して
④各調査校と一般標準との比較(第一表)
純型S、Z、E、H、Nに属するものは、標準、保育者両グループ共に約36%程度、混合型SZ……等は約13%を占め、さらに無型Mが約50%で、この両グループ間に差が認められない。

第 二 表

校 別	傾向の強いと思われる項目 (+2 と記したものの%)					傾向が弱いと思われる項目 (-2.0 と記したものの%)					校 別
	I	II	III	IV	V	V	VI	III	II	I	
	% 45~	% 40~45	% 35~40	% 30~35	% 25~30	% 25~30	% 30~35	% 35~40	% 40~45	% 45~	
B		12(E)	17(B) 11(Z)	36(Z)	23(S) 46(Z) 5(N) 39(H) 35(N)	29(H)	13(S)				A
A	17(E) 12(E)	46(Z)	11(Z) 36(Z)	21(Z) 42(E) 39(H)	6(Z)	13(S)	29(H)		29(H)	14(S)	B
C	12(E)	17(E) 11(Z)	36(Z)	14(H) 21(Z) 15(N) 37(E) 35(W) 46(Z) 2(E) 39(H)	3(S) 32(E) 10(N)	43(S) 19(H) 7(E)	33(S) 48(S) 50(S)		29(H)	13(S)	C
計	12(E)	17(E)	11(Z) 36(Z)	46(Z)	36(H) 14(H) 21(Z) 5(N) 23(S) 35(N) 6(Z) 2(E) 37(E)	33(S) 50(N)	29(H)	13(S)			計

この結果
す。
類型を示
内は性格
あり、()
問項目で
番号は質
る。表中
表であ
のが第二
整理した
いて集計
の()につ
記したも
の(-2と
われるも
弱いと思
び傾向が
の)およ
したも
の)おも
び傾向が
弱いと思
われるも
の(-2と
記したも
の()につ
いて集計
整理した
のが第二
表であ
る。表中
番号は質
問項目で
あり、()
内は性格
類型を示
す。

類型毎にみると、標準グループより保育者グループは、Zが著しく多く、これに反しS、H、E、Nが少ない。
これは、各質問項目について、われわれの経験とよく一致する。
②各質問項目より親た保育者の傾向(第二表)
50個の質問項目中、とくに傾向の強いと思われるもの(+2と記

標準	全体	C	B	A	校別		計
					H	N	
6.9	9.6	8.1	9.6	11.6%	5.8%	H・N	20.8%
5.7	8.2	10.4	7.7	5.8%	2.9%	H・N	8.8%
2.0	5.8	9.3	3.8	2.9%	2.1%	H・N	21.1%
14.6	23.5	27.8	21.1	2.1%	2.1%	H・N	21.1%

③異常傾向と思われるものについての検討
50(N)あなたは何かうまく行かなかつたことをいつまでも愚痴っぽくこぼす方ですか。(女々しさ)

- 傾向の強いもの
12(E)あなたは規則的な生活をするのが好きな方ですか。(丸帳面)
17(E)あなたはいつも掃除などは徹底的にしないと気がすまない方ですか。(徹底性)
11(Z)あなたはあわれな話を聞いた時など、すぐほろりとする方ですか。(同情心)
36(Z)あなたはいつも陽気に活動しているくせに、ささいなことでよくしょげる方ですか(循環性)
46(Z)あなたは気軽に冗談を云ったり、はしゃいだりする方ですか(ユーモア)
39(H)あなたは周囲の人の理解があつたら、もつと才能をのばせたのにとと思うようなことがありますか。(自己中心性)
○傾向の弱いもの
13(S)あなたは他人に、冷い感じで何を考えているかわからない等といわれる方ですか。(貴族性)
29(H)あなたは派手な服装が似合う方ですか。(虚栄)
33(S)あなたは他人の心配ごとや悩みなどに対し、割合に冷淡でいられる方ですか。(冷たさ)

第四表

F. R. Hicks	22% (精神病的)	22% (精神病的傾向)
L. A. Peck	33% (適応異常)	17% (要治療)
N. Fenton	22.5% (適応異常)	
堀内敏夫(都田)	9.6% (μ)	
神奈川県教育研究所	40% (不安定)	
J. A. Broxon	35% (情緒的適応異常)	

ここではH、Nがそれぞれ(十パーセント以上)を異常傾向に属することとすれば(精研佐野氏他による)第三表のようになる。標準(精研佐野氏他)と比較すると著しく多く、特に現場に参加しているC校においてこの傾向が強い。

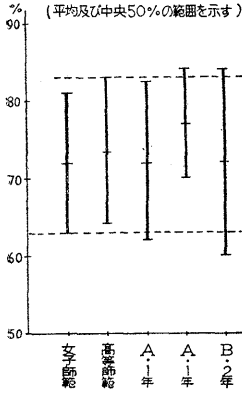
さらにこの結果を従来のが国および諸外国におけるものと比較すると、(第四表)

今までにも大体教員中、その二乃至三十%に適応異常を認めているわけであるがこの点、本調査でも大体同様の結果を得ている。

◎知能に関する

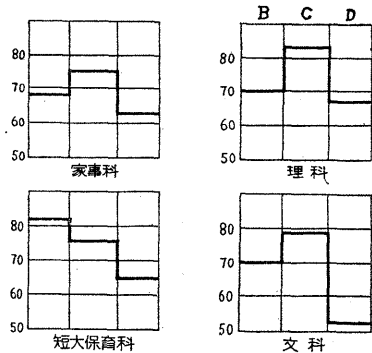
本調査に用いた「桐原式一般知能検査」は旧制の女子師範学校、女子高等師範学校その他について調査し、その結果を公表してあるゆえ、比較が便利である。第一図これ

第一図



により知能においては、旧制に比し殆んど大差ないことがわかる。さらに、各要素毎のプロファイルについて旧女高師のそれと比較したものが

第二図



次の第二図である。これによれば、再認(B)において勝り、完成および類推(C)および図形分割(O)は普通、であることがわかる。

積木遊びにおける幼児集団の比較

関屋幼稚園 清水 エミ子

- 一、目的 学齡前の幼児にどうしたら正しい社会性が身につく民主的な交友関係が結ばれるようになるか、この課題に対して積木遊びにおける幼児集団を比較観察してみた、
- 二、対象児 一年保育児(十一月—三月末までに生れた)男児二八名、女児一三名、計四一名。